■After 建築名称 下段:英語名	ツァイツ アフリカ現代美術館／サイロ ホテル Zeitz Museum of Contemporary Art Africa／The Silo Hotel		建築URL	
建築用途	大分類　展示施設、宿泊施設	小分類　美術館、ホテル		
設計者	ヘザウィック・スタジオ		https://heatherwi	
所在地	ケープタウン/南アフリカ		https://www.google.co.jp/map	
改修年	2017年	元建築の竣工年	1921年	
建築規模 構造・階数・面積				After　左のサイロが美術館、右がホテル
掲載書誌	・世界のリノベーション建築ー創造的リユースを目指して ・Thomas Heatherwick Making			
賞・選定	2019年度のCivic Trust Awardsを受賞			撮影者 提供者　撮影:桐原武志　2025年
主な関連法規、条例、助成金 等				概要 after　42本のサイロで埋め尽くされた中に、アトリウム空間を作り出すため、内部のサイロを貯蔵されていたトウモロコシの粒を拡大した形状に削り取り独創的な空間を生み出している。
関連組織 等				
資料等			https://www.schs.	
■Before 建築名称	穀物サイロ			概要 before　1921年に建設され、高さ57mは当時南アフリカでもっとも高い建物で港湾のシンボル的な穀物サイロであったが、1990年に役割を終えた。
建築用途	大分類　生産施設	小分類　サイロ		

■写真 Before	南アフリカ全土から運ばれてきた穀物を選別・貯蔵したサイロ	After	アトリウム内観。トウモロコシの粒を拡大した形状で削り取られたサイロの断面が独創的。	After	正面外観。上部のホテル階には内部から膨らんだようなガラスパネルが組み込まれてい
撮影者 提供者	Thomas Heatherwick Makingより引用	撮影者 提供者	撮影:高橋良弘 333architects 2025年	撮影者 提供者	撮影:桐原武志　2025年

■関連タグ／リノベーションキーワー	用途変更、断面、痕跡、外観保存、海外
■リノベーション内容	南アフリカ全土から運ばれてきた穀物を選別・貯蔵し、出荷準備を整える場所として1921年に建設された穀物サイロ。ケープタウンで最も高い建物で港のランドマークとして存在していたが、流通がコンテナー輸送に変わり2001年にサイロとしての機能を終え、将来の利用の可能性が検討されていた。同時にツァイツ財団は所有している世界的に有名な現代アフリカ美術コレクションを公開する場を探しており、このサイロをツァイツ現代美術館として改修する構想がうまれた。改修するための大きな課題はサイロの形状を継承し42本のサイロが密集する中に美術館としての展示空間と大きなアトリウム空間を確保する事であった。考えられる手法としては、外周部のサイロを保存し内部のサイロを解体して空間を確保ことだが、ヘザウィック・スタジオが考えた手法は、サイロに貯蔵されていたトウモロコシの粒を巨大に膨らませた形状でサイロを削り取ることであった。それにより新築建物では作りえない独創的な空間が生まれた。さらに、サイロのチューブを活かしたエレベータシャフトや螺旋階段の切り口からエレベーターや人々がアトリウムに動きを与えている。 リノベーション建築の魅力の一つは、役割を終えた建物に現在の息吹を与え、新築には無い魅力的な空間を作り出すことだが、ツァイツ アフリカ現代美術館はその好事例といえる。
■備考	

■作成者 氏名／所属	桐原武志　Free／JIA再生部会	作成協力者		整理番号	No215